

自分のまちを 考える機会に



小山知子さん
(能登2)

ドイツと日本は明治時代以来、精神的に近い関係にあると思っ
ていましたが、今回初めて訪れて
みて、ドイツという国の豊かさに
驚かされました。それは経済的、
物質的なものではなく、広大な自
然と長い歴史を目の前で見て、肌
に感じることであったということ
です。

私たちが宿泊したホテルの洗面
所には必ず、設置されているタオ
ルの使い方についての呼び掛けが
されていました。「毎日ホテルか
ら出る大量の洗濯物の洗剤が地球
を汚してしまう原因となるため、
タオルの使用の仕方にも心掛けま
しょう」ということです。日本で
は見掛けただけのこと、このよう
な心構えからも、ドイツの人々の
環境を守る気持ちが伝えられてい
ました。このような小さなメッ
セージから、自然を大切にすると
いう当たり前のことをあらためて
気付かされました。

さんありました。そうしてあらた
めて自分の暮らす町のことを考え
る良い機会を与えられたように思
います。

ドイツで見てきたものをそのま
まコピーしただけでは効果も期待
できませんが、見習うべきことと
しては、自分の町の歴史や風土を
もっと知り、大切に守っていくこ
とです。こういった意味では、エ
ルランゲンでの風揚げは個人的収
穫となりました。白根市の伝統文
化に直に触れてみて、知らないこ
とがあまりにも多く、そこで初め
て目にしたエルランゲン市職員
のカルツアさんと同じく興味津々、
新鮮な気持ちになりました。

百聞は一見にしかず。 まちづくりは人づくり



千野紀子さん
(古町)

ドイツの街の景観は本当に素晴
らしいものがあります。伝統を守
り抜く意気込みが感じられます。
ロマンチック街道沿いの街々は、
中世ヘタムスリップしたかのよ
うに夢の中へ誘い込んでくれます。
都市計画の話の中で感じたので

フランクフルト #1は「まちづくり」の思想



島山浩子さん
(水道町4)

私たちが訪れたフランクフルト
は面積二百五十平方キロメー
トル、人口六十五万。鉄道・国際航
路の要地です。自動車保有率世界
二位といえ、市の交通対策で道路
渋滞はまったくなし。マロニエや
スズカケの並木道があり、緑が多
いことが目につきます。ちょうど、
落ち葉処理車が作業をしていまし
た。所得税率四八パーセントの高
税率でそのような作業を賄うほ
か、福祉制度にも充てられ、老後
の心配はないとのこと。

田村明氏著「まちづくりの思想」
によれば、まちづくりの基本思想
とは、人間環境の思想・市民自治
の思想・総合的主体の思想・地域
個性確立の思想・継続的創造性の



ですが、日本であれば車の渋滞が起
きてから「どうすればよいか」と
いうことになりませんが、あちらで
は渋滞を起こさない手だてを先に
考えます。個人の利便、利益より
も、市全体のことをまず考え、市
民もそれに協力しているように思
われました。

説明していただいた市職員の方
はブレザーにジーンズというカ
ジュアルな服装で、日本の「お役
所」というイメージとはほど遠い
ものがありました。役所は市民に
とって身近な親しみやすい場所
になっていると感じます。
環境問題にしても、地球はみん
なのものという意識が徹底して
いるように思われます。車は停車し
たらすぐにエンジンを切ります。
ごみ処理にしても、四つに区分さ
れたボックスが街角に見られ、市
民がごみを出している姿が見られ
ました。ごみを出さないというこ
とで、スーパーで買い物をして
袋をくれませんか。持参した袋に入
れていました。袋は有料です。歯
ブラシもブラシ部分の取り替え用
が売られていました。一本の柄で
何回でもブラシを取り替えるので
す。「百聞は一見にしかず」、まっ
たくそのとおりです。

今回はまちづくりという研修
テーマでした。まちづくりには人
づくりが必要です。今後、次代を
担う中・高校生の派遣事業も検討
してもらいたいと思います。

思想・実践の思想の六要素から成
立るとしています。
私はフランクフルトの訪問を終
え、この「まちづくりの思想」が
街に息づいているのを感じまし
た。川岸と平行する木々、広大な
植物園。石畳に替え水はけを良く
する工夫がされている道路、建築
が一体となった街並み、博物館通
りと呼ばれる連続した博物館施設
。市誕生一千二百年の時の中で
培われてきた創造力が街全体にあ
ふれています。三百年前の設計図
を保管し復元する実践力は真似で
きないものでしょう。

フランクフルトの 都市計画を見て



野沢雅行さん
(中央通り)

まず最初に訪れた所は、商都フ
ランクフルトでした。都市計画局
を訪ね、説明を受けました。

すドイツにあつて、フランクフル
トだけは高層ビルが林立。町並み
保存の考えで建築規制はないのか
尋ねてみると、法律による規制は
無く、都市計画の実施主体である
各都市で合意されれば良いとのこ
と。一九八〇年代までは高層ビル
は建てられませんでした。一九
八九年に政権が変わり、街中での
高層ビル建設が認められるよう
になったそうです。そこには中世か
らの自由都市国家の精神と、市が
経済的に発展する方向に向かえば
良いという考えがあるとのこと。

六十五万を超す大都市でありな
がら、街中には車の渋滞はほとん
どありません。地下鉄、バス、路
面電車が市内を巡っていて、市内
へ向かう多くの人々はこれらの公
共交通機関を利用。市では有料駐
車場を造り、その収益でまた近郊
の駐車場建設に充てるという方法
をとっているそうです。最近では、
近郊駅の駐車場を利用すると市の
鉄道を無料で利用できる制度や、
市内にオフィスを建てる際、会社
からお金を徴収して駐車場建設費
に充てる方法も導入されているそ
うです。単に乗り入れを規制する
のではなく、公共交通機関が利用
されやすい環境を積極的につくり、

白根市海外派遣研修「地球ウォッチング'96」報告

異国の地、 見て学んだ8日間

豊かな国際感覚を身に着けたまちづくりの担
い手を育成しようと、昨年市が行っている
市民海外派遣研修「地球ウォッチング」。今年
は10月27日から11月3日まで、市民5人がドイ
ツへわたり見聞を広めてきました。

フランクフルト、ローケンブルクなどの主要
都市を回ったほか、エルランゲンでは持参の大
風を揚げるなど交流を深めてきました。今回の研
修テーマはまちづくり。皆さんの研修報告です。



▲エルランゲン市のレグニッツ川河川公園の広場で、持参の大風「大高」を揚げる。

結果として規制するというやり方
には非常に感心させられました。
今回このような研修に参加させ
ていただき、ありがとうございます。
貴重な体験ができ、大変うれ
しく思います。

古き良きドイツ 大きな体験



研修団長
関根繁之さん
(諏訪木4)

この研修に参加させていただい
たことに関係各位の皆様に感謝申
し上げます。少人数ではありまし
た、それぞれが得たものは大き
な団体研修では得られない数々の
見識、感動であったと思います。
残念ながら、私たちが交流の目
玉としていた風揚げに関しては、
当日、エルランゲン市の学校など
が休日だったらしく、子供たちと
の交流はできませんでした。しか
し大きな草原の公園で、最高の天
気に恵まれ、大高の絵が緑映えわ
たるドイツの空に舞う様は見事だ
りました。居合わせた人々が「何事か!
東洋の神祕か」といった顔をして
いて、思わずしてやったりと溜飲
を下げました。感動の一日でした。
私自身の研修テーマである道路
川、街については全く予想外の体
験。かのアウトバーンは国内各都
市をくまなくネットし、かつ無料。

渋滞はもろくなし。パーキング
エリアも意外と質素で、合理的に
できています。日本とは金の掛け
方が違うなと思います。高速道路
地図も全国が記入されていて、紙
質はわら半紙のようでしたが、中
身は非常に充実していました。
川に関しては、マイン川沿いを
約半日ほど走りました。日本の川
はほとんどが用水、排水ですが、
地域的なものかもしれませんが、
フランクフルト地方を含めて運河とし
て活用されているのは驚きでし
た。従って一般道は意外と大型ダ
ンプ、トラックが走っていない感
じです。白根の昔の砂利運搬船を
一回り大きくした船が、スクラッ
プ、車、穀物油などの大量輸送の
大きな位置を占めているようで
す。川沿いにユースホステル休暇
村、オートキャンプ場が整備され
ていて、非常に自然とマッチした
開発が行われていました。

古き良きドイツ。本心に意義あ
る一時でした。小さな集団でした
が、大きな体験をしてきたと自負
しています。